

東京都小学校体育研究会 夏季合同研究会記録（体の動きを高める運動領域部会）

1 開会の挨拶（黒澤常任理事）

本日はご多用のところ、東京都小学校体育研究会夏季合同研究会体の動きを高める運動領域部会の研究分科会にご参加ありがとうございます。本日は新型コロナウイルス感染拡大により完全オンラインとして開催させていただくこととなりました。この後、本部会から今年度の研究内容、今後の研究の方針などについて説明させていただきますが、どうかご忌憚の無いご意見をいただきまして、本部会が皆様にとって有意義なものになることを祈念いたします。

2 研究報告（発表者 岡田）

①学習課題について

「マイスタート・マイゴール」「他の運動・領域に生かす」「目標とする動きに迫っていく」の3つの領域特性を通して、楽しさや喜びを味わえると考えている。本部会では、子供の問いから生まれる解決したい事柄を学習課題と捉えた。

東京都小学校体育研究会としての課題の捉え	左記を受けた本部会の課題の捉え
自分の思いや願いから設定した学習課題	体の動きを高めることの目的に関する学習課題
自分の今もっている力から設定した学習課題	体の動きの高め方に関する学習課題
目標に向けての取組から設定した学習課題	自己の取組を修正、活用する学習課題

②第1回実証授業について

令和3年7月8日（木） 会場：江戸川区立上小岩第二小学校

第5学年2組 岡田真典 主任教諭 「体の動きを高める運動」第1時

成果	課題
● 第1時のねらい（やってみる→問いをもつ）を達成した。 ● プロモーションムービーを通して、学習意欲の喚起をすることができた。 ● 問いから学習課題を見出していた児童が8割程度いた。	● 第1時の振り返りを、学習課題に応じて、どのように第2時につなげていくのかを明確にする必要があること。 ● 共有の場面をいつ設定するか。何を価値付けするのかを設定すること。

【一人一人の子供が学習課題を見いだす手立ての工夫】

- 1 運動との出会い
- 2 問いの分類
- 3 学びのロードマップの作成

【体の動きを高める運動領域部会における学習指導の工夫】

- 1 教師の働きかけの明確化
- 2 第5学年の学習過程の作成
- 3 新たな運動例の開発

③第2回実証授業について

日時未定（決まり次第 HP 等で周知する） 会場：江東区立豊洲西小学校

第6学年4組 畠中圭太 主任教諭 「体の動きを高める運動」単元中盤～後半を予定

【第2回実証授業に向けた研究の構想と視点について】

- 1 教師の働きかけの明確化
- 2 第6学年の学習過程の作成
- 3 新たな運動例の開発と運動アプリの開発

3 協議

参加者 56 人を 9 グループに分け、グループ協議を 30 分間実施。

【グループ協議の視点】

- ・領域の特性に応じた学習過程について
- ・第1回実証授業について
- ・第2回実証授業について

【全体協議】

○Aグループ報告（河野）

学びのロードマップと学習過程を中心に話し合った。学びのロードマップでは、目標設定をどのようにするのか、どのような目標を設定することを想定しているかという質問があった。目標設定は、「広げる問い」「深める問い」から見いだした学習課題を中心にロードマップで示していくと答えた。想定している目標は、「体の動きを高める」というねらいから逸脱しない範囲で考えさせていくと答えた。参加された先生方からは、第5学年の導入が大切になりますねというご意見をいただいた。学習過程については、子供たちに委ねていくとマネジメントが難しくなるというご意見をいただいた。部会では、その対応策としても新しい運動例とアプリを作成中であるという説明をした。

○Bグループ報告（岡田）

「問いのもたせ方について」の質問が多かった。子供がどのように問いをもつのかという点に興味を持った先生が参加された。実際に第1時の実証授業で出た問いを伝えながら説明した。研究の一般化に向けて、「子供が問いをもつことができる言葉がけ」をキーワード化して示していくことが必要であると感じた。加えて、「教師は何をすればよいか」が分からないと話していた先生もいた。その先生には、運動例について話をした。

○Cグループ報告（畠中）

参加してくださった先生方には、提案した内容を概ね全体的にご意見・ご感想を言っていたいただいた。その中でも、印象深かった内容を報告する。運動例が色々出てくると運動が広がっていくため、どのように工夫を見取り、どのように価値付けしていくのかというご質問をいただいた。価値付けとしては、運動の目的や、どのように学んでいくか（修正・活用）をロードマップで価値付けしていくと答えた。運動の見取り方としては、運動の様子を撮影して観察し合うなどの手だても効果的ではないかというご意見をいただいた。部会で考えた手だてをそれぞれ独立させて話をしているが、手だてがどのように繋がっているのかを関係図で提案できると、より参観者に伝えられたのではないかと感じた。

○D グループ報告(藤原)

体育を専門として研究をしている先生方ではなかったため、研究の視点についてというよりは、授業自体の流し方についてのご意見・ご質問が中心となった。「タブレットの活用の仕方」「体の動きを高める運動領域の評価」について気になっている様子であった。「学びのロードマップ」は、子供たちの学習意欲が喚起される魅力的なものであるという評価をいただいた。また、「問いをどのようにもたせればよいのか」という質問もあった。授業をしていて子供たちから疑問や気付きがないという反応があったので、その時の対処法が気になっている様子であった。

○E グループ報告(関川)

4つのご質問があった。1つ目は、「五年生の学習過程について詳しく知りたい。また、第一時の流れを具体的に知りたい」という内容。①クラス全体で動きを高める動きの目的の共有をする。②4要素について共有する。③プロモーションムービーを活用し、やってみたいという意欲を高め、運動に取り組む(教師は、取り組みを賞賛していく)④教師は発問をしていく「高まりとは何か?」という発問を投げかけ、学習を深める。「何をしているの?」「これをして何が高まりそう?」「高まりって何だろうね?」「何でそれを行っているの?」「高まりってどうやって 感じればいいのか?」という発問例を伝えた。⑥振り返り「やってみてどうだった?」(学習カード)⑦全体で共有。⑧第2時は問いを共有して、最初の高めるという目的(「高めたい」という目的)を確認していく。以上の流れを説明した。2つ目は、「個人、全体のロードマップの活用の仕方について詳しく知りたい。」という内容。深い資料掲載の作成の手順を改めて丁寧に伝えた。3つ目は、「学習課題と問いの違いについて知りたい。」という内容。学級全体で体の動きを高めるという目的を共有したうえで、体の動きを高めるために一人一人の子供がそれぞれの運動を行って感じた思いや願いを実現するためには「どうすればいいのだろう」と見いだしたものが「問い」である。その問いを解決しようと「こうすればいいのかな」「こうしていいこう」と考えたことが「学習課題」である。教師は、子供の問いから学習課題へ方向づけていく働き掛けが大切である。以上のように伝えた。4つ目は、「問いがもてない子への手立てについて知りたい」という内容。分からないことも子供たちの問いをして扱う。この場合、体の動きを高めることの目的に関する学習課題だと捉える問いの分類表を参考に、それぞれの学習課題の違いや「簡単な問い」、「広げる問い」、「深める問い」を意識して、子供が運動を通してどのような問いをもったか教師が「やってみてどうだった」、「どうやって行うの」、「何が高まりそうかな」などの発問を通して働きかけ一人一人の課題意識を捉えながら運動の目的や動きの高め方、高まりの実感を促していけるようにする。ことができ、目的を明らかにするよう な学習課題の設定に向けた支援をする必要があると考える。以上のように伝えた。

○F グループ報告(山本)

問いの分類、プロモーションムービー、学びのロードマップ、体の動きを高める運動アプリなどの手だてについて肯定的なご感想をもっていただいた。教師の働きかけの明確化について興味をもっている先生がいたので、部会資料を基に、「教師が教えること」と「児童が考えること」を再度説明した。学びのロードマップでは、手順②の「目標の書かせ方」「想定される目標」についてご質問があった。この質問は、全体協議で共有し、回答することとした。参加された先生方からは、部会が提案する資料にニーズがあることを実感した。令和元年度までのオリエンテーションのプレゼン資料やパンフレットを各校で使用して下さっていた。プロモーションムービーの活用の仕方も示すことができたので、手続きをして早急に一般化できればと感じた。

○Gグループ報告(坪根)

「プロモーションムービー」「学びのロードマップ」「指導で困っていること」の主に3点について話題に上がった。「プロモーションムービー」はあると学習意欲が喚起されていいですねというご感想をいただいた。「学びのロードマップ」ってどのようなものなのかというご質問があった。学習の見通しをもったり、学習の跡をたどったりすることができ、個の学びと全体の学びをつなぐものであるという説明をした。「指導で困っていること」として、「高まりの実感のさせ方」についてご質問をいただいた。運動例と関連させて話が盛り上がった。量的な高まりから質的な高まりにつなげていけたらいいですねという話に着地した。第2回実証授業に向けて新たな運動例を示すことに、ご期待いただいた。

○Hグループ報告(藤井)

「学習過程」「学びのロードマップ」「問い」「学習課題の設定」が結びついていなかったのので、説明を加えた。特に、「問い」と「学びのロードマップ」をどのように結びつけて学習を進めていけばよいのかという点については深掘りして聞かれた。「高まりの実感をどのようにさせるか」という質問には、1パックで1回は取り組んだ運動の成果や課題を学習カードに記入させて実感させていくことと、教師の言葉がけであると回答した。「一人一人の学びのまとめ方」「一人一人の課題をどう統一させていくか」という質問はその場では回答できなかったため、全体協議での質問を促した。この質問に関しては、部会で整理していく必要があると感じた。「学びのロードマップは授業でどのように生かされていくか」という質問には、学びのロードマップの扱い方、扱うタイミングを説明した上で、参加者のご意見を伺った。

○Iグループ報告(小木曾)

参加者は耳だけの参加であったため、一方的に部会の考えを補足するような形になってしまった。今年度の手立ての1つである「学びのロードマップ」を低学年や中学年でどのように活用しているのかという、実践事例の紹介を行った。

○Jグループ報告(鈴木)

「学びのロードマップ」というものを初めて知って、おもしろい試みであるというご感想をいただいた。もう少し具体的に作成の仕方や活用の仕方を知りたいという話があった。そのため、部会資料を活用しながら補足説明をした。全体のロードマップを個のロードマップとどのように結びつけていくかという点については回答しづらかったため、全体協議で質問をしていただけるように促した。「プロモーションムービーの進捗状況」について質問を受けた。作成の経緯、実証授業で活用してみてもの児童の反応などについて説明をした。「プロモーションムービーを見せた後の言葉がけ」について質問を受けた。それに対しては、「見てどうだった？」と、問いをもてるような言葉がけをしたと回答した。

○全体協議の場で出た質問

「第1時の学習を第2時以降にどのようにつなげていったのか。」

(チャットより)

→学期末だったため、第2時自体はまだ実施できていない。第2時の構想としては、以下のように考えている。今回の実証授業は、第5学年の学級を借りて実施した。実証授業にあたり、担任には他教科でも「問い」という言葉を日常的に使用して授業を実施していった。それもあり、本時では部会資料にあるような「問い」をもつことができた。例えば、児童から吸い上げた「タイミングを意識して」などの言葉を切り口に、動きが「できる」か「できないか」という点にとどまっている児童に対して、「どのようにすることで体の動きが高まったと言えるのかな」と発問をしていこうと考えている。

「やってみる」という要素の強い第1時であったため、第2時では「高める」という意識をもつことができるように働きかけていきたい。そこから吸い上げた「問い」と結びつけた「学習課題」を学びのロードマップに示し、学級全体で共有していきたいと考えている。

(岡田)

「やってみるということが大切な第1時の中で、どのように運動例を示したのか知りたい。用具だけ与えて自由に運動させたのか、またどのように働きかけていったのか教えていただきたい。」

(江戸川区立東小岩小学校 馬場先生)

→運動経験の多さから「長なわ」「短なわ」、新たな運動例として「平均台」、ボールは有効かどうかの検証のために「ボール」の4種の運動を選択した。プロモーションムービーを見た後に、各運動の場所を指定した。ただし、「このような運動をするんだよ」という示し方は基本的にはしなかった。「長なわ」に関しては、連続跳びをしていた。「短なわ」は一人一人、「二重跳び」や「はやぶさ」に取り組んでいた。「ボール」に関しては、バスケットゴールに向かったシュートを打ったり、ドッジボールのようなキャッチボールを始めたりするなど、他の運動以上に工夫の広がりが見られた。「平均台」に関しては、運動開始後はほとんど取り組んでいなかった。授業中盤から、100円ショップなどに売っているクッションパイプを半月状に切ったものを平均台に置いた。これを置くだけで難易度がかなり向上したようで、取り組む児童が増えた。部会としては、「平均台」を通してバランスの意識が向上するという手応えを感じたので、新しい運動例開発に生かして第2回実証授業に向けて提案していけたらと思う。

(岡田)

「学びのロードマップの手順②で書かせる目標として想定しているものはどのようなものなのか。」

(江戸川区立東小岩小学校 馬場先生)

→最初のゴールイメージの設定としては、「体の動きを高める」という点を外さないように考えている。そこがぶれてしまうと、「とにかく工夫をすればよい」「色々な動きができればよい」ということで学びが止まってしまうので、領域特性からぶれないようなゴールを設定することを大切にしている。また、「ただ高めればよい」ではなくて「仲間と協力しながら」とか「運動自体を楽しみながら」というところも児童から引き出せるように、「プロモーションムービー」を流したり、運動資料を提示したりしながらゴールイメージをもたせるように考えている。初めに設定した目標が最後までそのままいくとは限らない。学習の進展に伴い、随時追加、修正をしていきながら柔軟にゴールを設定していくことを考えている。また、学級全体だけでなく、個人でも目標を設定するので、そちらも合わせて第2回実証授業でご覧いただければと思う。

(河野)

○協議を受けて2学期の実証授業につなげていきたいこと

- ・問いをもたせるための教師の働きかけ
- ・学びのロードマップをどのように活用していくのか
- ・問いをどのようにして、学びのロードマップに結びつけていくのか
- ・一人一人の学習課題をどのようにまとめていくのか
- ・どのような運動例を開発し児童に示していくのか
- ・体の動きの高まりをどのように実感させていくのか

以上の課題は、第2回実証授業に向けた研究を通して明らかにしていき、提案していきます。

4 今後について（河野部長）

第2回実証授業では、「新たな運動例」と「運動アプリ」の開発、「教師の働きかけ」を中心に授業づくりをしていきたく考えている。どうしても子供たちに活動を委ねると、マネジメントや個に応じた指導が難しくなってしまう。その対策にもなるのが、「新たな運動例」と「運動アプリ」の開発だと考えている。子供たちが工夫をすれば必ず動きが高まっていくような運動を開発すること、子供たちが1人1台持っているタブレットを活用しながら学び合えるようなアプリを開発することを目指している。「教師の働きかけ」は、第1回実証授業では検討しきれていない。単元の序盤・中盤・終盤や、1単位時間の中での働きかけを具体的に提案していけたらと考えている。日程調整中ではあるが、第2回実証授業は、江東区立豊洲西小学校で11月上旬を目処に第6学年で予定している。詳細が決まり次第、お知らせしていく。ぜひご参会をお願いします。アンケート調査のご協力もお願いします。本日はありがとうございました。

5 閉会の挨拶（高草木常任理事）

本日は充実した協議、多くの参考になるご意見ありがとうございました。本日いただいた貴重な成果を生かして第2回実証授業がさらに有意義なものとなるように、さらに研究を深めて参ります。以上をもちまして、体の動きを高める運動領域部会研究分科会を閉会いたします。